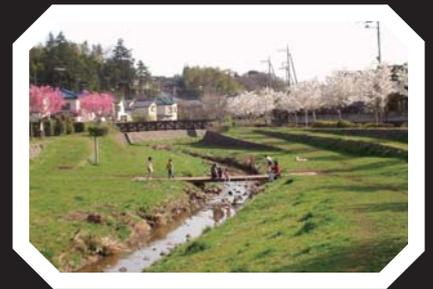


# 横浜の環境 2010



～横浜市生物多様性キャッチフレーズ～

本リーフレット「横浜の環境 2010」は、  
横浜市における様々な  
環境の現状や取組状況に  
ついてお知らせしています。  
ぜひ横浜の環境のことを知っていただき、  
一人ひとりが横浜の環境のために  
できることを考えてみませんか。



## 私たちの暮らしと生物多様性には 深いつながりがあります。



### 最近、「生物多様性」という言葉をよく耳にしませんか。

生物多様性とは、様々な自然が存在し、そこに住む生き物たちそれぞれが個性をもち、お互いが影響し合って豊かな生態系を保っていることをいいます。私たちの暮らしと生物多様性は深い関係があります。現在、生物多様性は、人間の活動による開発や乱獲、外来生物の持ち込みや地球温暖化などにより、危機にさらされています。

わたしたちの街、横浜でも、最近身近な生き物が見られなくなっていることにお気づきですか。ホタル、トンボ、バッタ、チョウなどの昆虫、ツクシ、ヤマユリなどの草花、これら身近な生き物の種類や量が減っています。この現象は、横浜でも生物多様性が失われつつあることを示しています。残念ながら、こどもの頃に実際に見たり、聞いたりしていた「めだかの学校」や「かえるの合唱」は、童謡の中だけの話になり始めています。

生物多様性は、生き物だけの話ではなく、自然との調和を大切にしてきた日本人にとって、そこから生み出された文化にも関係があります。生物多様性を失うことは、これらの文化も失うこととなります。

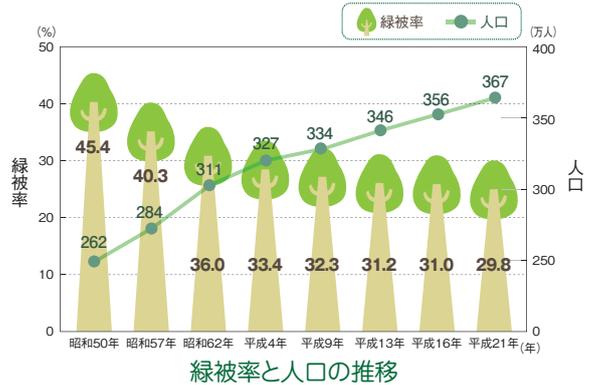
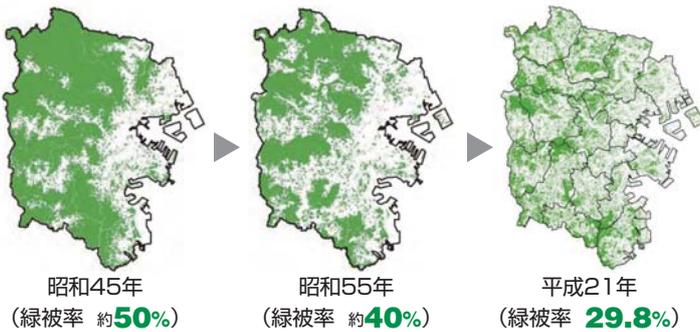
横浜市は、生き物や植物の生息・生育環境に配慮した公園の整備や企業や市民の皆さまと協働した緑化などを進め、生物多様性を守るための取組を行ってきました。市民の皆さまにも、まずは身近な自然に目を向け、動物や植物を眺めることから始めていただき、横浜の生物多様性を一緒に守っていきましょう。

# 減りつつける横浜のみどり、皆さまの協力でみどりの保全をすすめています。



横浜市では、人口増加による都市化の進展に伴い、「緑」の総量を示す緑被率の減少が続いています。市内の緑の総量の変化について傾向を把握するため、概ね5年ごとに調査を行っています。調査結果からは、平成16年度から21年度までの5年間は、毎年約100ヘクタールの緑が失われていることとなります。

平成21年度から、市民や事業者の皆さまから、ご負担いただいている「横浜みどり税」を活用し、「樹林地を守る」「農地を守る」「緑をつくる」を3つの柱とした「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」に取り組んでいます。



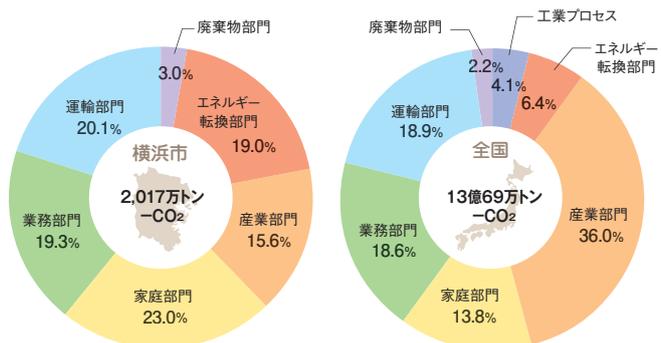
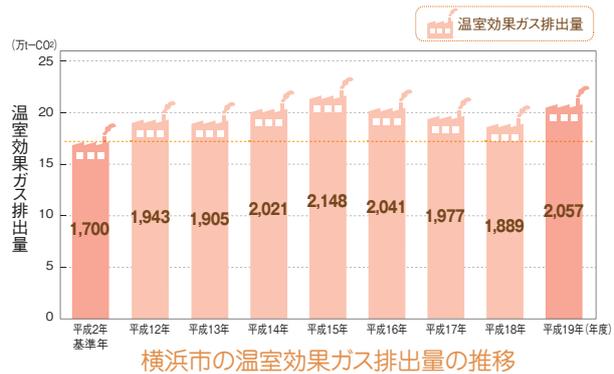
※緑被率は調査年度によって調査手法や精度が異なるため、概ねの傾向を示したものです。

# 未来の地球を考え、さらなるCO<sub>2</sub>削減が必要です。

横浜市内の平成19年度の温室効果ガス排出量は、全国の1.5%に相当します。京都議定書の基準年である平成2年度と比較すると21.0%増加しています。温室効果ガスの約98%を占める二酸化炭素の排出量の構成について、全国と比較すると、家庭部門の割合が高くなっています。人口の多い横浜市は家庭部門の対策を今後も積極的に行っていく必要があります。

また、横浜市では、世界を先導する次世代エネルギー供給・社会システムを構築するため、「横浜スマートシティプロジェクト\*(YSCP)」を推進しています。

※横浜スマートシティプロジェクト…横浜市が民間企業と共同で、CO<sub>2</sub>削減と地域経済の活性化を目指して、スマートグリッド(次世代電力網)関連技術などを実証するプロジェクトです。平成22年4月に経済産業省「次世代エネルギー・社会システム実証地域」に選定され、今後5年間で実証を行います。



横浜市と全国の二酸化炭素排出量の構成比(平成19年度)

# 横浜の空気や川の水はきれいになってきています。 海の対策をもう一步進めます。



代表的な大気汚染物質である二酸化窒素の平均濃度は、自動車排気ガス規制の強化や工場・事業場に対する規制指導によって、継続的に改善しています。

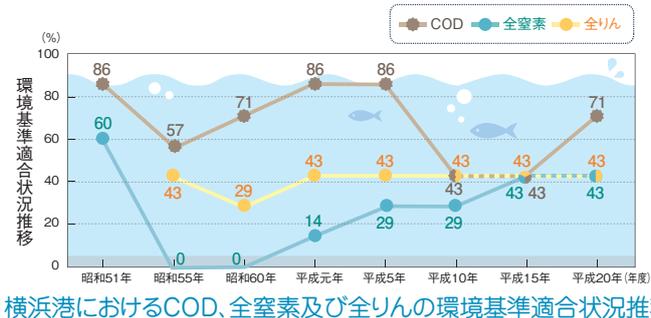
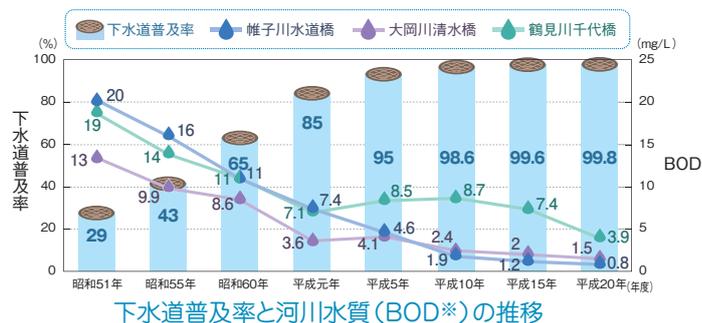
河川の水質(BOD※)は、工場等の排水規制や下水道の整備によって、大きく改善されています。

海域の水質は、横浜港内をはじめとした7箇所の調査地点を設けて、毎年継続した水質調査を行っています。有機汚濁の指標であるCOD※、富栄養化※の原因となる全窒素及び全りんは、環境基準を達成していない地点があるなど課題があります。

※BOD…微生物が汚れを食べて分解するときに、微生物が必要とする酸素の量です。水が汚いほど、BODの値は大きくなります。

※COD…水の中の汚れの物質の量を化学的に測った値です。水が汚いほど、CODの値は大きくなります。

※富栄養化…家庭や工場からの排水に含まれる全窒素や全りんが海に流れ込んだ結果、海が持つ自浄能力を超えて、赤潮の発生がおりやすくなる現象です。

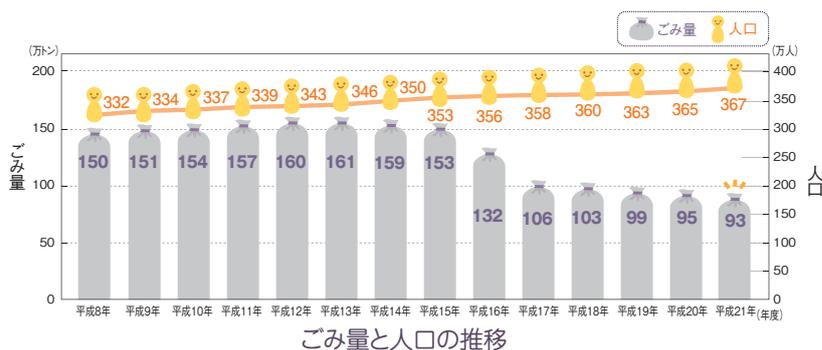


## ごみの分別・リサイクルにより、 ごみの減量が進んでいます。



市民・事業者の皆さまのご理解とご協力により、ごみ量は減り続け、平成21年度のごみ量(速報値)は、約93万トンで、横浜G30プランの基準年(平成13年度)比で42.2%削減することができました。

今後とも、横浜市では循環型社会の実現を目指します。さらなるごみの減量・リサイクルにご協力ください。



# 横浜の環境は、市民や企業の皆さまに 支えられています。

横浜市内では、公園や河川・水辺施設、樹林地などの清掃活動、企業の敷地内での緑化の取組など、様々な環境活動が行われています。今後も多くの市民の方々や企業の皆さまが横浜の環境への関心を  
持っていただき、環境活動を実践していただけるよう、様々な応援を行っていきます。

## 環境活動を応援する各種表彰制度等

助成金	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境に配慮したまちづくり団体、環境保全活動団体、資源物を回収する団体、森づくりボランティア、愛護団体などの活動経費を助成</li> <li>● 敷地内の花だんや屋上緑化など緑をつくるための取組費用や、農地、あぜ道、法面等の整備などの農地を守るための取組費用に対する奨励金制度</li> </ul>
研 修	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境活動団体や、これから環境活動団体を設立したい人向けの、活動を進めるための研修</li> <li>● 地球温暖化防止や水や緑の保全・再生といった環境問題への理解を深め、環境にやさしい行動ができる人づくりをすすめるため、市内の小学校や地域の皆さまを対象の出前講座</li> <li>● 里山管理などの技術研修、ワークショップの開催など</li> </ul>
表彰制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜環境活動賞(様々な環境活動に取り組んでいる団体)</li> <li>● 公園愛護会表彰(公園の維持管理等にかかわった個人・団体・事業者など)</li> <li>● 横浜環境行動賞「ヨコハマG30」(ごみの減量・リサイクルを推進した個人・団体・事業者)</li> </ul>
情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民の皆さまのニーズの高い環境活動に関する情報を一元化し、情報を容易に入手できるようにすることを目的に「環境行動情報サイト」を開設。各種イベント情報に加え、市民活動団体リストや環境に関する企業の取組等を掲載 ※ 詳細は、ホームページをご覧ください。(http://www.city.yokohama.jp/me/kankyoku/kkjs/)</li> </ul>

## 環境のために一人ひとりができること。

横浜の環境は、市民の皆さまのちょっとした心がけで、さらに良くなります。まずは、一人ひとりが環境のためにできる身近なことからはじめましょう。今年国際生物多様性年です。皆さまの力で、横浜の生物多様性を守っていきましょう。

